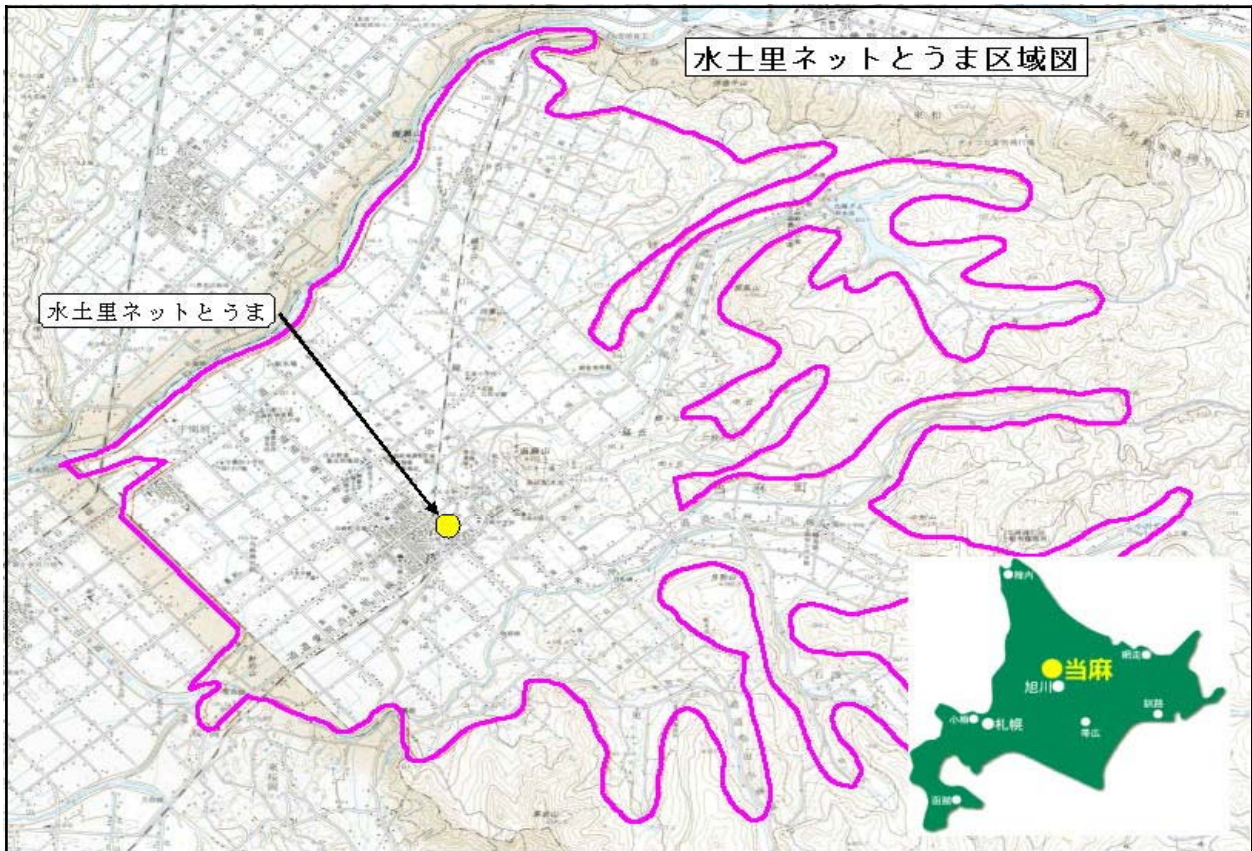


【位置図】



I 水土里ネットの概要

- ・水土里ネット名： とうま
- ・理事長名： 池 沢 和 義
- ・役職員数：役 員 9 名、職 員：常勤7名（内臨時職員2名） 非常勤 2名（巡視員）
- ・住 所： 北海道上川郡当麻町4条東3丁目4番63号
- ・連絡先：電 話 0166-84-2231
 F A X 0166-84-2232
 e-mail onodera@tohma-kairiyoku.or.jp
 U R L www.htochiren.jp/adobe/580go/580go.pdf
 (HPが水土里ネットに無く県や都道府県水土里ネットにある場合、そちらを記載してください。)
- ・受益面積： 4,662 ha
- ・組合員数： 659 名
- ・水土里ネット設立の経緯：昭和30年代後半近代化農業経営を目指すなか、国営かんがい排水事業（S44～54）・道営かんがい排水事業（S47～58）、道営ほ場整備事業〔4地区〕（S47～H2）等の農業基盤整備実施と既存土地改良施設の維持管理事業を目的として、昭和43年12月20日認可申請、昭和44年5月1日北新第89号をもって設立認可された。

Ⅱ 地域の特徴

(水土里ネットが置かれている地域の状況が把握できるよう、地域の地理、社会経済、歴史・伝統、文化、景観・自然環境などを詳しく記述してください。)

1. 地理

水土里ネットとうまがある当麻町は北海道の穀倉地帯である上川支庁管内のほぼ中央に位置し、北海道の屋根といわれる大雪山連峰の麓で、東経142度30分、北緯43度49分、東側は山づたいに上川町、愛別町に、北西側は大雪山系に源を発する石狩川に沿って比布町と隣り合い、南西は北・北海道の拠点都市旭川市に接している。

面積は東西17.3km、南北に13.5kmで総面積20,495haを有して、地形は南西部から北にかけては山林地帯を形成、自然の丘陵が起伏をしながら大雪山連峰に連なっている。

河川は北側に石狩川が、また広大な町有林内に源を発する牛朱別川^{ウシユベツガワ}、当麻川が町の中央部を流れ、その流域に肥沃な平坦地が開かれている。

地質構成は平坦地の大部分が埴壌土で石狩川に沿っては沖積土、砂壤土となっており、丘陵地帯はおおむね埴壌土で、東方面は礫壤土で、まれに火山灰地と泥炭地が若干ある。

農業を基幹産業とし本道でも有数（北海道農協米対策本部米の総合評価ランキング8年連続北海道1位）の良食味米生産地帯である。米作を基幹として、そ菜、花き、などの農産物も生産する純農村である。

2. 社会経済

北海道第二の都市旭川市の隣接町として、世帯数において昭和30年（人口ピーク14,226人）2,429戸で平成18年（人口7,685人）2,987戸と近年町外からの居住者が増加している。

基幹産業である農業で水稻を基幹として、昭和45年減反政策で作付け始められた野菜・花卉などの農産物を生産している。農業生産額は米穀で2,837百万円、野菜・花卉で1,554百万円、その他239百万円で合計4,630百万円である。

表彰は平成15年度全国土地改良事業団体連合会金章受賞、平成16年度21創造運動北海道大賞受賞（改）、平成17年度日本農業賞大賞（でんすけ部会）、平成18年度地域水田農業ビジョン大賞優秀賞農林水産省生産局長賞（水田農業推進協議会）、ホクレン夢大賞農業部門大賞（花き生産組合菊部会）、平成19年度全国花き品評会バラ部門において金賞（黄木氏）、バラ部門銀賞（土井氏）、バラ部門銅賞（三田氏）をトリプル受賞。

3. 歴史・伝統文化

明治26年5月屯田兵（400戸、2,193人）が入植し未開の地へ鋤が入れられた2年目の明治28年には20aの試作田に水稻を作付けした結果280kgの収穫をみた、明治33年に石狩川より水を引く為の灌漑溝掘削工事が着手された。又、昭和20年8月15日終戦を契機に軍関係復員者、外地引揚者が入植し開拓された開明・緑郷地区では昭和26年から着手した国営開墾建設事業（ダム・頭首工・用水路造成）で外国製の建設機械を導入し造成され、本町開拓地水田の水源が確保され洪水調整、水温上昇も兼ねている。

当麻ダム（昭和34年6月8日竣工）の当麻水天宮は昭和34年11月4日に建立され、社殿は

旧当麻神社のご遷宮後の本殿（明治29年建立された御宮は釘を使用していない、台座の美瑛石も旧当麻神社から運ばれて使用）を平入屋根に改造し、当麻ダムの守護神としてダム展望台の山頂に移築された。祭神は奈良県芳野郡丹生川上村（にゅうかわかみむら）鎮座の元官幣大社「丹生川上神社」（にゅうかわかみじんじゃ）ご分霊の罔象女神（みづのめのかみ）を祀る。本年は建立112周年になり本町最古の木造建築物である。毎年4月水土里ネットが主宰し祭典（水天宮祭）を挙行している。

昭和44年5月1日土地改良区設立と同時に国営直轄かんがい排水事業を始めとし、かんがい排水事業、ほ場整備事業、ため池等整備事業、中山間地域総合農地防災事業、中山間地域総合整備事業、農村総合整備事業等の道営事業、他各種の団体営事業も実施している。

現在は水田農業ビジョンをふまえて、平成17年から平成22年道営地域水田農業支援緊急整備事業（受益面積185.8ha）、平成18年から平成20年農業水利水利施設保全対策事業（基幹水利施設ストックマネジメント事業）（受益面積652.6ha）、平成19年から平成27年国営総合農地防災事業『とうま地区』（553ha）で実施している。

4. 景観・自然環境

東に大雪山連峰を望み、麓には広大な町有林があり、北西には北海道一の長流石狩川が流れ中央には牛朱別川、当麻川等が流れ、豊かな森林と豊富な水と肥沃な大地に恵まれている。

町の西側に国道39号線、並行して導水幹線用水路があり、環境景観保全活動の一環で用水路沿いに「太陽の花」として親しまれているひまわりの種（花径30cm、背丈3m）を蒔いた。

（当麻町立宇園別小学校）



（大雪山連峰を背に田植え作業）



（全道一の当麻今摺米の収穫作業）



（3メートルに伸びた水路沿線のひまわり）

Ⅲ 運動の取組体制（選考基準 1）

（組織としての取り組みについて確認します。役職員だけでなく、組合員等が創造運動の必要性を認識して取り組んでいるか確認します。具体的にその内容を記述してください。）

1. 「水土里ネット役員」の21創造運動に対する意識（選考基準 1-①）

（該当する口を■に置き換えてください。）

- 水土里ネット役員が意識が改革され、運動を積極的に推進している。
- 水土里ネット役員が意識が徐々に変わり始めている。
- まだ変わっていない。

チェックした項目の具体的な内容：理事会等で21創造運動を年2回（8月・3月）報告している。当初は1から2名であったが、現在は9名の役員のうち6～7名が参加するようになった。

2. 「水土里ネット職員等」の21創造運動に対する意識（選考基準 1-①）

（職員のいない水土里ネットでは、配水係等の係員について回答してください。）

（該当する口を■に置き換えてください。）

- 水土里ネット職員等の意識が改革され、運動に積極的に取り組んでいる。
- 水土里ネット職員等の意識が徐々に変わり始めている。
- まだ変わっていない。

チェックした項目の具体的な内容：少ない人数だが全員で協力しあって、休日でも21創造運動に取り組んでいる。（通常業務の合間で準備等を行なっている）

3. 「水土里ネット組合員」の21創造運動に対する意識（選考基準 1-①）

（該当する口を■に置き換えてください。）

- 水土里ネット組合員の意識が改革され、運動に積極的に取り組んでいる。
- 水土里ネット組合員の意識が徐々に変わり始めている。
- まだ変わっていない。

チェックした項目の具体的な内容：施設見学会や田んぼの教室では、広く組合員まで啓発が出来ないが、平成15年度からの地域イベント（新そばまつり、当麻町文化祭）に参加して21創造運動が周知されてきた。

また、H16年21創造運動北海道大賞の受賞が契機となり、この運動の情報が広報誌等に掲載されたことで、組合員の運動に対する意識が一段と高揚してきた。

4. 21創造運動の担当部署について（選考基準 1-①）

（取り組み体制の実態を教えてください。リーダーについては活動を牽引する者を記載して下さい。）

（該当する口を■に置き換えてください。）

- 21創造運動を実践していくため水土里ネット内に担当部署を設けている。

担当部署： () 人

リーダーの役職・氏名等：

- 特に担当部署は設けていないが、組織（職員）として取り組んでいる。
- 職員はいるが、役員が中心となって取り組んでいる。
- その他：

5. 将来の運動を担う後継者を育てるための工夫（選考基準 1-②）

（運動の継続性が求められています。それに向けた後継者を育成するためにどんな工夫をしたか〔例えば、プレゼンテーション技術の習得など〕記述してください。）

・人材育成の工夫：現在総務課長（57歳）が中心になって活動しているが、若手職員2名が常に一緒になって活動していることから後継者対策は問題がない。又、総務課長が退職後も協力する事も検討している。また、地域住民の中にも歴史や伝統的な工芸に詳しい人物がいるので、これらの方の協力を得て、この運動を継続していきたい。

IV 21創造運動の意義性（選考基準 2）

1. 21創造運動に取り組むこととなった背景、きっかけ

（地域の課題、水土里ネットの問題意識など、運動に取り組んだ背景やきっかけについて具体的に記述してください。）

・背景としては、全道一の良質米の生産や、見かけは黒いが甘い果肉で有名な「でんすけすいか」や大雪のバラ等の特産品がある反面、当麻全体として高齢化・少子化に伴う後継者不足の問題や水土里ネットとうま内部の後継者育成の必要性に迫られていた。

この運動の取り組みのきっかけは、次のことからであった。

・平成13年、当時当麻町教育委員会で開催していた小学4年生を対象の「ふるさと教室の施設見学会」と町内在住の60歳以上が対象の「いちい学園」の施設見学会が起因となる。

この「いちい学園」の施設見学会は、平成14年まで実施していたが、現在は学園のカリキュラムの関係から一時休止していたが、近年また要望等があり施設見学会の検討をしている。

・「ふるさと教室の施設見学会」に対し、教育委員会より水土里ネットに協力依頼があり、バスの使用を条件に、総合学習の時間を充ててもらい水土里ネット、当麻小学校、教育委員会三者の連携で始まった。

・平成15年からは施設見学会をしていた4年生に加え、5年生にも、田植えや稲刈りの農業体験を行う「田んぼの教室」を実施することとなった。



（きっかけは、苗舟をつかった昔ながらの田植えからスタート、稲刈り後は足踏み脱穀）

2. 21 創造運動に取り組むに当たって掲げた理念（理由や目的、スローガン等）（選考基準2-①）

～21 創造運動を通し「水土里ネットがどうなっていくべきか」思いの丈を記述してください～

（21 創造運動は、内部運動と外部運動を合わせて実施していくこととなっており、これらの取り組みを組織として一体となって取り組むには、取り組む理由や目標の明確な設定が不可欠と考えています。また、「何故この運動に取り組むのか」を意識して取り組むことでより効果の高いものとなります。

このため、運動に取り組むにあたっての理念（理由や目的）を記述してください。）

・目的として21 創造運動による地域農業の活性化と後継者育成が挙げられるが、その手法として、まず第一に「農」を守るために将来を担う子どもたちに【食と農の大切さ】と米の出来るまでを学んでもらい、地域の財産である農地・農業用水等の資源の役割や大切さを良好な状態で継承していく。これらは水土里ネットだけでは不可能であり、内部では役職員や組合員、外部では学校、行政、地域住民の協力が必要であり、学校とは協定締結を行い今後も継続して実施する。そのためには長く、緩みなく、そして細やかな活動が必要である。

・「たゆまなく続く農業への情熱と将来に向けた後継者づくり」をテーマとして実践していく。



（新米・新そば祭り会場の駅前広場と合同事務所）



（生涯学習フェスティバルでの活動状況）

3. 「IV-2」の理念はどのように決定されましたか（選考基準2-①）

（該当する口を■に置き換えてください。）

- 水土里ネット総（代）会
 水土里ネット理事会
 水土里ネット内部（事務局レベル）

4. 水土里ネットにおける地域の歴史や先人達の想いが伝えるような取り組みをしていますか。

（選考基準2-②）

（歴史・伝統文化については、地域固有のものであり、これを理解し、後世へと伝えていくことは地域に根ざした取り組みを目指している水土里ネットにとって重要なことと考えます。よって、歴史や伝統文化伝承に対する取り組みの工夫や活用した人材について記述してください。）

・取り組み内容

（Vの2の運動〔内部・外部運動〕の内、該当する活動毎にどのような工夫をしたのか記述してください。）

◇活動名：土地改良施設見学会

①歴史や伝統文化伝承に対する取り組みの工夫

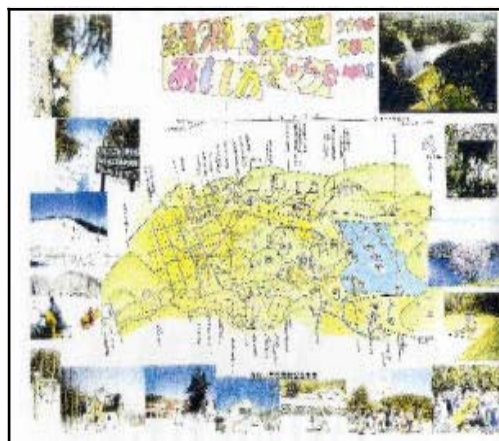
水土里ネットとうまの設立は、昭和44年と歴史が浅く、それ以前の土地改良施設の造成管理は当麻町で行っていたことから資料等がなく、郷土資料館や図書館で明治・大正・昭和・平成それぞれの写真などの資料収集し、新旧比較して説明資料としている。



(大正時代のタービンポンプ)



(昭和47年のポンプ)



(お年寄りに話を聞いて作った手作りマップ)

②人材活用 (どのような人材を(1)の活動を行うために活用しているか記述してください。)

地域の農業経験者のお年寄りに大正・昭和時代の話を聞いて施設見学会の参考にしてている。

5. 運動が他の手本となるユニークさや先駆性を持っていますか。(選考基準2-③)

(Vの2の運動〔内部・外部運動〕の内、該当する活動毎に、それが他の水土里ネットの手本となるようなユニークな取組や先駆的な取組であるとする理由を具体的に記述してください。)

◇活動名：田んぼの教室（当麻町立当麻小学校5年生）

・具体的な内容：最初は田植えと稲刈りだけだったが、翌年度からは用水路の清掃、苗の生育観察、田植え後の生育観察、田んぼに棲む生き物観察、暗渠排水の模型を使い水田の地下水の流れる仕組みを学習した。また、例年2月には小学生の水田や施設に対する質問に答えるために出前授業を行っている。

小学生（46名）による田んぼの教室の体験をNHK旭川放送局の協力で、子供達だけでテレビ番組の製作した。（平成17年製作、H19年も製作予定）

また学習発表会ではお米についての演劇も行い、H19年度から暗渠排水に使用される「素焼き土管」の製作を体験する予定である。



（熱心に稲の生育観察をする当麻小学校5年生）



（暗渠排水の模型を使って地下水の流れを学習）

◇活動名：当麻米生産確保緊急支援システム

目的：北海道一の米産地として水稲作付面積を確保することが重要課題であるため、米の生産調整後、営農の中心的農業者が急病や怪我により急遽水稲の作付けが困難となった場合における農作業の支援体制を関係機関と連携し、水稲作付面積の減少を防ぐことにより当麻米の安定出荷を確保する。

構成員：当麻町・当麻町農業委員会・水土里ネット・当麻農業協同組合で組織する。

◇活動名：水田農業構造改革対策現地確認

作業内容：生産調整現地確認の支援

V 21創造運動の継続性・発展性 (選考基準 3)

1. 運動の継続性 (選考基準3-①)

◇ 財源状況

①自主財源等を活用している場合は、該当する口を■に置き換えてください。(複数回答可)

予算書に活動費の項目立てをしている (理事会の議題に取り上げている)。

予算には計上していないが、その都度、理事会にかけて支出している。

今後とも、自主財源を確保できる見込みである。

活動によっては、参加者から参加費用をいただいている。

(活動名 : _____ 会費の額 : _____)

・財政的な支援は受けていないし特別予算化はしていないが、水土里ネット北海道、行政 (上川支庁・当麻町) から人的、物品支援を受けている。

具体的には、H 18 年度は上川支庁から延人数にして 25 名、当麻町から延人数 3 5 名の人的支援、水土里ネット北海道からポケットティッシュ 2000 個・クリアファイル 200 枚・のぼり・半纏の借用等物的支援を受けている。

当麻町教育委員会からは、施設見学等における年 6 回のバスの提供を受けている。

②補助事業を活用している場合は、該当する口を■に置き換えてください。

補助事業の期間中は確保されている。

補助事業終了後は、自主財源から支出する予定。

補助事業の終了後は、財源は未定。

補助事業は活用していない。

③他の機関から財政的な支援を受けている場合は、該当する口を■に置き換えてください。

他の機関からの支援は当分の間、確保されている。

他の機関からの支援が終了した場合、自主財源から支出する予定。

他の機関からの支援が終了した場合、財源は未定。

他の機関からの財政的援助は受けていない。

2. 21創造運動の平成18年度までの実績 (選考基準3-①、3-②、3-③、4-①~⑥)

(21創造運動の理念を達成するためどのような活動をしたか、また、活動の手法や取り組みの経緯(継続期間)、活動に係る経費(金額)とその財源、さらに活動の成果や地域住民の評価等の点も含めてアピールしたいことを活動毎に全て記述してください。)

(1) 内部運動 (活動毎に記述願います。)

◇活動名 : 水土里ネット北海道が主催するセミナーや研修会への出席

①開始時期 : 平成13年度

- ②活動経費： 80 千円 (役職員旅費)
 : 内訳 補助金 千円 (事業名：)
 支援団体 千円 (団体名：)
 自主財源 80 千円

③活動内容 (活動状況の写真を添付してください。)

水土里ネット北海道が主催する21創造運動をテーマとした、セミナーや研修会に出席。



(水土里ネット北海道が主催するセミナーに参加する役職員。H17年・H18年)

④これまでの成果 (選考基準4-①~⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。)

21創造運動実務研修会にも出席、従来水土里ネットが不慣れであった広報活動等による、水土里ネットの啓発・普及の方法を習得、イベントの実施や地域説明等で21創造運動の活動の助けとなっている。

⑤今後の計画、見通し： 後継者育成の面からも若手職員を含め積極的に参加。

◇活動名： 他機関との連携と役職員の意識改革

①開始時期：平成13年度から取り組む

- ②活動経費： 0 千円
 : 内訳 補助金 千円 (事業名：)
 支援団体 千円 (団体名：)
 自主財源 千円

③活動内容 (活動状況の写真を添付してください。)

職員同士、又は役職員で21創造運動の取り組みを検討し、意識の向上を図っている。
 また、職員が少ないことから他の機関との連携が必須であり、少人数での効果的な運動の可能性を検討し、実施に結びつけている。

④これまでの成果 (選考基準4-①~⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。)

多様な連携が図れた結果、多彩な活動が可能となり、役職員間の意識の改革が見られる。

⑤今後の計画、見通し： J Aや町等との多様な連携を今後も継続していく。

(2) 外部運動 (選考基準3-①、3-②、3-③、4-①~⑥) (活動毎に記述願います。)

◇活動名： 第1回とうま新米・新そばまつり (昨年までは新そばまつり)

①開始時期：平成17年度から取り組む (平成18年10月1日開催)

②活動内容 (活動状況の写真を添付してください。)

各イベント会場において、施設見学会 (写真展)、田んぼの教室 (写真展)、当麻クロスカントリースキー大会 (写真展)、ミニ絵画展 (全土連絵画コンクール参加作品)、暗渠排水模型展示、DVD放映 (全土連水路転落防止啓発用) 等の水土里ネットとうまのブースを設置し、水土里ネットの愛称普及や役割等の啓発を進めてきた。

昨年までは新そばまつりだったが今年からは新米・新そばまつりとなり参加者も増加した。

上川支庁整備課・上川支庁中部耕地出張所・水土里ネット北海道・当麻町教育委員会の協力を得た。



(参加者で賑わう新米・新そば祭り会場)



(会場内に設置された水土里ネットのテント)

③水土里ネットの役割：□主催、□共催、■協力、□その他

(該当する口を■に置き換えてください。なお、活動のために組織を別途立ち上げて実施している場合は、「その他」を■にして、VI-1に組織の概要を記載してください。)

水土里ネットも実行委員の一員として、テント設営他運営等を担っている。

④連携する団体 (団体の概要をVI-1に記載してください。)

団体名：当麻町収穫祭実行委員会

団体の役割：当麻町農産物を町内外にPRし、活力ある当麻農業の推進に寄与するとともに、地産地消活動により、町民相互の理解と連帯感を増進する。

⑤活動経費： 1 千円 (子供達に配る風船代)

：内訳 補助金 千円 (事業名：)

支援団体 千円 (団体名：)

自主財源 1 千円

⑥これまでの成果 (選考基準4-①~⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。)

約10,000名の来場者にパンフレット・ポケットティッシュを配布して水土里ネットの活動をPRできた、また水土里ネットの役割への理解が深まっている。

◇年度別参加者内訳（過去3年について整理して下さい。）

年度	外部運動に係わったスタッフの数(延べ数)							外部運動への参加者の数(延べ数)							イベント等開催数	
	役員	職員	組合員	行政	JA	水土里ネット北海道	計	組合員	一般	学 生 等						計
										小	中	高	教諭	小計		
16							0							0	0	
17	2	8	—	5	6	3	24	300	800	530	270	90	10	900	2000	1
18	2	8	—	6	6	3	25	350	7560	1600	280	200	10	2090	10000	1

⑦今後の計画、見通し：平成19年度以降も実施（たんばの教室で製作する素焼き土管の展示）

◇活動名： 第30回当麻クロスカントリースキー大会

①開始時期：平成15年度

②活動内容（活動状況の写真を添付してください。）

平成15年から、組合員の所有する水田を利用してコースを設営することとなったため水土里ネットも参加することとなり、クロスカントリースキー大会会場に21創造運動の『のぼり』を立て『水土里ネットとうま』のロゴマークと昨年の大会写真を掲示して参加者に21創造運動のポケットティッシュ（水土里ネット北海道提供）を配布しアピールした。

又、各組優勝者にクリアファイル（水土里ネット北海道と水土里ネットとうま提供）を贈呈した。

道内で開催されるクロスカントリースキー大会では最大規模で全国大会出場選手も多数出場する伝統ある大会である。（小・中・高校生が対象の大会）



（水田の上に作られたコースを滑る選手達）



（零下の中で水土里ネットの撮影写真を見る観客）

③水土里ネットの役割：□主催、□共催、■協力、□その他

（該当する口を■に置き換えてください。なお、活動のために組織を別途立ち上げて実施している場合は、「その他」を■にして、VI-1に組織の概要を記載してください。）

大会実行委員会の一員として、コース設営や、記録係等の運営に携わっている。

④連携する団体（団体の概要をVI-1に記載してください。）

団体名：当麻クロスカントリースキー大会実行委員会

団体の役割：クロスカントリースキー技術の向上と健康増進を図る。

本大会には毎年全道各地の小学生・中学生、高校生約300名の参加があり、今までにオリンピック選手も出ている。

⑤活動経費： 0 千円
 ：内訳 補助金 千円（事業名： ）
 支援団体 千円（団体名： ）
 自主財源 千円

⑥これまでの成果（選考基準4-①～⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。）

クロスカントリー大会に参加している選手の中には、施設見学会（5名）、たんぼの教室（6名）、ひまわりの植栽（4名）の経験者が出場しており、その父兄等を通して他の組織との多様な連携が構築され、水土里ネットの役割や21創造運動のPRとなっている。

年度	外部運動に係わったスタッフの数(延べ数)							外部運動への参加者の数(延べ数)							ハ ン ト 等 開 催 数	
	役員	職員	組 合 員	行政	JA	水土 里 ネ ッ ト 北 海 道	計	組 合 員	一 般	学 生 等						計
										小	中	高	教 諭	小 計		
16	1	4	5	10	6		26	30	258	215	80			295	583	1
17	1	4	6	12	6		29	26	265	221	56			277	568	1
18	1	4	8	13	7		33	27	240	199	73			272	539	1

⑧今後の計画、見通し： 本年度以降も継続して協力

◇活動名： 排水愛護共励会

①開始時期：昭和57年度から取り組む

②活動内容（活動状況の写真を添付してください。）

・昭和57年組合員が自主的に排水路を管理する組織として立ち上げたが、組合員の減少等により十分な管理が困難になってきた。そのため水土里ネットが事務局となって、組合員及び地域住民に病虫害予防や降雨時の浸水防止を広く呼びかけて『排水愛護共励会』を組織し、年1回地域の排水路の草刈り、ゴミ拾いを実施している。

③水土里ネットの役割： 主催、共催、協力、その他

（該当する口を■に置き換えてください。なお、活動のために組織を別途立ち上げて実施している場合は、「その他」を■にして、VI-1に組織の概要を記載してください。）

事務局として、傷害保険や経理等を担当しているとともに、各路線の代表者と連絡体制をとりながら、現地においても4名の職員が地域の住民や組合員と一緒に活動している。



（排水路の草刈をする排水愛護共励会の人達）

④連携する団体（団体の概要をVI-1に記載してください。）

団 体 名 3 4 町内会（排水路沿線の町内会）

団体の役割： 排水沿いの病虫害予防や洪水防止を目的として、草刈・ゴミ拾いを実施。

⑤活動経費： 385 千円 (草刈機の燃料代等)
 : 内訳 補助金 千円 (事業名：)
 支援団体 千円 (団体名：)
 自主財源 385 千円

⑥これまでの成果 (選考基準4-①~⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。)

平成16年は、参加人員397名、排水路32条、総延長38km、平成17年は、400名、34条、48km、平成18年は、395名、34条、48kmと活動範囲を拡大してきている。また、組合員は減少傾向にあるが、反面地域の住民の参加が増えてきており、地域住民の排水管理に対する協力体制は整ってきている。

年度	外部運動に係わったスタッフの数(延べ数)						外部運動への参加者の数(延べ数)						イ 外 等 開 催 数			
	役員	職員	組合員	行政	JA	水土里 ネット 北海道	計	組合員	一般	学 生 等				計		
										小	中	高			教諭	小計
16		4					4	332	65					0	397	1
17		4					4	322	78					0	400	1
18		4					4	291	104					0	395	1

⑦今後の計画、見通し： 今後も組合員は減少していくので、更なる地域住民の参加を呼びかけていくとともに、ゴミ拾いは日常的におこなっていくような方向付けをし、効率的な活動を行う必要がある。

◇活動名：農業用水の多面的機能発揮に向けた取組

①開始時期：昭和54年度から取り組む

②活動内容 (活動状況の写真を添付してください。)

農業用水の防火用水機能増進を図るため、かんがい期はもちろん水土里ネットで管理する地区内の用排水路や非かんがい期の逆サイホン工(3ヶ所)の位置図を上川中部消防組合当麻支署に提供し、防火用水として利用できる箇所を増加に向けて協議を進めているほか、防火訓練等にも活用している。



(貯流水を利用した非かんがい期の防火訓練)



(用水の流水を利用した防火訓練)

③水土里ネットの役割：□主催、□共催、■協力、□その他

(該当する口を■に置き換えてください。なお、活動のために組織を別途立ち上げて実施している場合は、「その他」を■にして、VI-1に組織の概要を記載してください。)

かんがい期に利用できる用水路の箇所や非かんがい期の逆サイフォン工で貯流水の利用できる施設位置図を作成し、消防署と協議を進めながら、防火訓練に立会う等、防火対策に協力している。

また、施設の利用にあたり、消防署の逆サイフォン工内の土砂排除を条件とする管理協定の締結を準備している。

④連携する団体(団体の概要をVI-1に記載してください。)

団体名：上川中部消防組合当麻支署

団体の役割：水土里ネットで作成した位置図を基に、かんがい期の用水路の流水、非かんがい期の逆サイホン工の貯留水(約100t、地下にあるので冬でも凍らない)を防火用水や防火訓練で活用。

⑤活動経費： 0 千円

：内訳補助金	千円(事業名：)
支援団体	千円(団体名：)
自主財源	千円

⑥これまでの成果(選考基準4-①~⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。)

用水からの消火活動は今まで3回行われ、実際に活用されてきた。防火訓練は6分団、年6回行われているが、消火栓を使用した場合は水道料金が掛かることから、用水の使用は、消防の管理費の軽減につながっている。

⑦今後の計画、見通し： 消防署と管理協定締結の準備中

◇活動名： 当麻町生涯学習フェスティバル

①開始時期：平成17年度

②活動内容(活動状況の写真を添付してください。)

当初は当麻町民文化祭として親しまれていたが、H13年から「当麻町生涯学習フェスティバル」となり、H17年から水土里ネットの職員が継続して実行委員を務めている。

会場内では、施設見学会、田んぼの教室、当麻クロスカントリースキー大会等の水土里ネット活動の写真展、ミニ絵画展(全土連絵画コンクール参加作品)、暗渠排水模型展示、DVD放映(全土連水路転落防止啓発用)を上川支庁中部耕地出張所・水土里ネット北海道・当麻町教育委員会の協力により行っている。



(ケイタとピースケのDVDを見る子供達)



(水土里ネットの写真展を見る参加者)

③水土里ネットの役割：□主催、■共催、□協力、□その他

(該当する□を■に置き換えてください。なお、活動のために組織を別途立ち上げて実施している場合は、「その他」を■にして、VI-1に組織の概要を記載してください。)

H17年から水土里ネットも実行委員会の一員として運営に参画し、水土里ネットのブースを受け持って、水土里ネットの役割や施設の事故防止の啓発・PRに努めている。

④連携する団体（団体の概要をVI-1に記載してください。）

団体名：生涯学習フェスティバル実行委員会

団体の役割： 町民のサークル活動等の作品を展示し、町民文化の向上に寄与。

⑤活動経費： 0千円

：内訳 補助金 千円（事業名： ）

支援団体 千円（団体名： ）

自主財源 千円

⑥これまでの成果（選考基準4-①～⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。）

農業施設での事故防止DVDの放映により事故防止に努めており、平成11年以来事故はない。

年度	外部運動に係わったスタッフの数(延べ数)							外部運動への参加者の数(延べ数)							イベント 開催数	
	役員	職員	組合員	行政	JA	水土里 ネット 北海道	計	組合員	一般	学 生 等						計
										小	中	高	教諭	小計		
16							0							0	0	
17	1	8				2	11							1000	1000	1
18	1	9				2	12							1000	1000	1

⑦今後の計画、見通し： 実行委員会の一員として今後とも継続して参画する。

◇活動名：田んぼの教室（年4回開催）

①開始時期：平成15年

②活動内容（活動状況の写真を添付してください。）

・平成18年度は、4月28日に用水路（700m）を水の流れていない水路の中に入り周辺の清掃（ゴミ拾い）を行い、水路の機能、規模、危険箇所等について学習した。

5月に田植えするほ場を確認、水稻育苗ビニールハウスを見学、4月15日に播種した2～3cmに成長した水稻苗（品種：ななつぼし）を観察した。



(用水路のゴミ拾いをする小学生 第1回)



(育苗ハウスを観察風景 第1回)

・5月24日には、田植えをする水田に水を引く頭首工及び用水路を見学後、ほ場で専用の舟に苗を取り、ななつぼしの田植え(約1,000㎡)を行なった。



(苗舟を使った田植え体験 第2回)



(泥んこになって田植えをする小学生 第2回)

・7月24日には、5月24日に田植えした稲の生育とカエル、ミミズ、タニシなどの生き物を観察し、田んぼで生き物が生息していることで農作物の安全性を確認し、稲をスケッチしたり、スケールで稲の丈を測ったり、茎の本数を数えたり、モミに触れたり観察した。そのとき幸運にもちょうど稲の花が咲いているのを見ることができた。また、暗渠排水の模型を使って水田の地下水が流れていく仕組みを学習した。



(稲の花 第3回)



(暗渠排水の仕組みを学習 第3回)

・9月25日には、稲の刈取りを手鎌を使って行い、組合員が行うコンバインでの収穫作業を見学した。収穫方法は刈取り→束ね→運び→はさ掛けを46名が4グループに分かれ各行程毎に作業を行った。

11月1日には、子供たちに脱穀したお米（ななつぼし）15kgを贈呈、12月2日と9日に学校において試食した。



(束ね手稲を運ぶ作業中 第4回)



(足踏脱穀機の順番待ち 第4回)

③水土里ネットの役割：■主催、□共催、□協力、□その他

(該当する口を■に置き換えてください。なお、活動のために組織を別途立ち上げて実施している場合は、「その他」を■にして、VI-1に組織の概要を記載してください。)

小学校、教育委員会と連携し、食と農の大切さや水土里ネットの管理する施設の役割に対する理解を深める。

④連携する団体（団体の概要をVI-1に記載してください。）

団体名：当麻小学校・当麻町教育委員会

団体の役割：たんぼを総合学習の場として一連の農作業やそこに棲む生き物観察、地域農業の歴史等を学習する。

⑤活動経費：

0 千円

：内訳補助金 千円（事業名： ）
 支援団体 千円（団体名： ）
 自主財源 千円

⑥これまでの成果（選考基準4-①～⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。）

子供たちに田植えや稲刈りだけでなく、育苗から米のできるまでの過程を1から教えることにより、食と農の大切さを理解するようになってきた。

さらに、子供達を通してその父兄や地域住民の水土里ネットの役割や施設の役割に対する理解が進み、各イベントへの参加や排水愛護共励会等への参加が増加し、将来の後継者としての基礎つくりと地域の活性化が進んでいる。

年度	外部運動に係わったスタッフの数(延べ数)							外部運動への参加者の数(延べ数)							イベント 等 開催数	
	役員	職員	組合員	行政	JA	水土里 ネット 北海道	計	組合員	一般	学 生 等						計
										小	中	高	教諭	小計		
16	3	15	0	11	0	0	29			184			12	196	196	4
17	2	15	2	19	0	2	40			213			11	224	224	4
18	2	15	1	16	0	2	36			184			11	195	195	4

⑦今後の計画、見通し：H19は、子供たちと暗渠排水用の素焼き土管の製作を予定。

◇活動名：土地改良施設見学会

①開始時期：平成13年

②活動内容（活動状況の写真を添付してください。）

平成13年・14年に教育委員会の主催で小学生対象の「ふるさと教室」と町内在住の60歳以上町民対象の「いちい学園」で施設見学会を行っていたが、平成15年より小学生（4年生）を対象とした施設見学会となった。当初は当麻ダムと大雪頭首工のみであったが、小学校との連携の中で、ダム・頭首工・揚水機・用水路等と見学施設が年を追うごとに増えていった。

見学会の中では、水土里ネットの職員が説明者となり、施設の歴史、役割、概要等を記載したパンフレットで学習し、後日参加者全員に感想文（作文）を書いてもらうようになった。



(ポンプの説明をする水土里ネット職員と小学生)



(頭首工の管理橋から石狩川を眺める小学生)

③水土里ネットの役割：■主催、□共催、□協力、□その他

(該当する□を■に置き換えてください。なお、活動のために組織を別途立ち上げて実施している場合は、「その他」を■にして、VI-1に組織の概要を記載してください。)

④連携する団体（団体の概要をVI-1に記載してください。）

団体名：当麻小学校・当麻町教育委員会

団体の役割：総合学習の一環として、農業用水の役割や必要性を学習する。（教育委員会はバスの提供）

⑤活動経費：

0 千円
 : 内訳 補助金 千円 (事業名：)
 支援団体 千円 (団体名：)
 自主財源 千円

⑥これまでの成果（選考基準4-①～⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。）

施設見学会をとおして、農業施設の役割と、機能等や水の大切さについて、小学生の感想文からその理解度が伝わってきた。

小学校・教育委員会との連携が強化された。

年度	外部運動に係わったスタッフの数(延べ数)							外部運動への参加者の数(延べ数)							イベント等 開催数	
	役員	職員	組員	行政	JA	水土里 ネット 北海道	計	組員	一般	学 生 等						計
										小	中	高	教諭	小計		
16	—	2	1	2	—	—	5	6	11	28			2	30	47	1
17	—	2	1		—	—	3			28			2	30	30	1
18	—	2	1		—	—	3			46			2	48	48	1

⑦今後の計画、見通し： 今後は小学生とあわせ、「いちい学園」と合同の施設見学会も検討している。

◇活動名： 子ども絵画展の作品募集

①開始時期：平成17年度

②活動内容（活動状況の写真を添付してください。）

全国水土里ネットと都道府県水土里ネットが主催する「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展の作品募集（46名）を行い、学校や子供たちとの交流促進を図っている。平成17年から参加して2年連続で入選作品が出ている。平成19年度は応募数100名を目指している。



(H17年子ども絵画展、入選作品)



(H18年子ども絵画展、入選作品)

③水土里ネットの役割：□主催、□共催、■協力、□その他

（該当する口を■に置き換えてください。なお、活動のために組織を別途立ち上げて実施している場合は、「その他」を■にして、VI-1に組織の概要を記載してください。）

「田んぼの教室」等に参加した子ども達中心として、多くの作品を小学校等を通して募集した。

また、参加作品の中から「水土里ネットとうま理事長賞」を年4作品程度選定し、理事長の好意によりトロフィーを授与している。

④連携する団体（団体の概要をVI-1に記載してください。）

団体名： 当麻小学校

団体の役割： 作品募集の依頼に協力

- ⑤活動経費： 2 千円 (画用紙代)
 : 内訳 補助金 千円 (事業名：)
 支援団体 千円 (団体名：)
 自主財源 2 千円

⑥これまでの成果 (選考基準 4-①~⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。)

子供達の農業に対する関心が深まり、作品が増加してきた。

⑦今後の計画、見通し： 今年度は100作品の参加を目指している (2小学校)

◇活動名： 田んぼの教室のまとめで出前授業

①開始時期：平成17年度

②活動内容 (活動状況の写真を添付してください。)

一年間 (4回開催) の田んぼの教室での質問 (20問) に答えるなど当麻小学校 (5年生) に
 出向き土地改良施設、お米、田んぼについての説明を実施した。

・主な質問

- I. 用水路の長さはどのくらいあるの？
- II. 用水路の大きさが変わっているのはどうしてですか？
- III. 大雨や洪水の時どうしますか？
- IV. 田んぼの水は毎日かえているにですか？
- V. お米が出来るまでに何日くらいかかりますか？
- VI. 田んぼの水はどこから来るの？
- VII. 一枚の田んぼでどのくらいのお米がとれるの？
- VIII. お米作りのなやみはなんですか？
- IX. 当麻町で一年間にどのくらいのお米がとれるの？
- X. 当麻町の田んぼの面積はどのくらいあるの？



(出前授業を熱心に聴く5年生)

③水土里ネットの役割： 主催、 共催、 協力、 その他

(該当する口を■に置き換えてください。なお、活動のために組織を別途立ち上げて実施している場合は、「その他」を■にして、VI-1に組織の概要を記載してください。)

一年間を通して行ってきた、たんぼの教室の総括として小学生の質問に回答しながら
 農業に対する興味と理解を深めていく。

④連携する団体 (団体の概要をVI-1に記載してください。)

団体名：当麻小学校・当麻町教育委員会

団体の役割：総合学習の一環としてたんぼの教室と同様農業全般の学習をする。

- ⑤活動経費： 0 千円
 : 内訳 補助金 千円 (事業名：)
 支援団体 千円 (団体名：)
 自主財源 千円

⑥これまでの成果 (選考基準 4-①~⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。)

水土里ネットの知名度が上がった。(道端で水土里ネット)のおじさんと呼ばれるようになったことと、これが評価され他の小学校からもたんぼの教室や出前授業に対する依頼を受けるようになった。

さらに、子供達を通して教師や父兄が水土里ネットの組織や仕事を理解してもらえるようになった。

⑦今後の計画、見通し： 今後は当麻小学校だけでなく宇園別小学校でも実施予定であるが、60歳以上の町民の集う「いちい学園」にも出前授業を検討している。

◇活動名：先駆的な農業振興活動として「農業機関合同事務所の設置」

①開始時期：平成15年度より

②活動内容（活動状況の写真を添付してください。）

町と農業団体が連携した農業振興活動の推進良質米のレベルアップなど一層の農業振興に向け、平成15年4月に町農林課、農業委員会、水土里ネット、農業協同組合、農業共済組合、農業センターの6機関・団体が地域農業者の要請により、当麻町農業合同事務所を開設。週1回金曜日各関係機関の管理職で連絡会議を開催し様々な情報を共有するとともに、水土里ネットもこれまで以上に地域農業の振興に積極的に関わっている。



(当麻町農業機関合同事務所：上内部、下全景)



(合同事務所の設立パンフレット)

③水土里ネットの役割：□主催、■共催、□協力、□その他

(該当する口を■に置き換えてください。なお、活動のために組織を別途立ち上げて実施している場合は、「その他」を■にして、VI-1に組織の概要を記載してください。)

当麻町農林課・JA当麻・農業委員会等と連携及び情報の共有をしながら農業者に対する行政的サービスを提供する。

④連携する団体（団体の概要をVI-1に記載してください。）

団体名：町農林課、教育委員会、農業協同組合、農業共済組合、農業センター

団体の役割：連絡会議で情報を共有

⑤活動経費： 0 千円

：内訳 補助金 千円（事業名：)

支援団体 千円（団体名：)

自主財源 千円

⑥これまでの成果（選考基準4-①～⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。）

農業者からも利便性等において高い評価を受けている。道内をはじめ、道外から農業関係団体の視察が開設以来多数ある。

⑦今後の計画、見通し： 水土里ネットもこれまで以上に地域農業の振興に積極的に関わっていく予定である。

◇活動名：地域の農作業の支援体制の確立

①開始時期：平成17年度

②活動内容

（活動状況の写真を添付してください。）

当麻米の安定確保に向け、農業団体が連携した農作業支援システム『当麻米生産 確保緊急支援システム推進協議会』を構築。

※「当麻米生産確保緊急支援システム」

当麻町内の水稲作付調整後に水田の割当面積を受けた農家が、急に怪我や病気で営農に支障を来たした場合に、当該年度に限り、町・水土里ネット・農協職員が農作業の支援を行う。



（農家支援のため田植えを行う水土里ネット職員）

③水土里ネットの役割：□主催、■共催、□協力、□その他

（該当する口を■に置き換えてください。なお、活動のために組織を別途立ち上げて実施している場合は、「その他」を■にして、VI-1に組織の概要を記載してください。）

当麻町・JA当麻・農業委員会等と協力しながら、農家の疾病や傷害時の支援を行う。

④連携する団体（団体の概要をVI-1に記載してください。）

団体名：当麻米生産確保緊急支援システム推進協議会

団体の役割： 怪我や急病時における作業体制の整備推進。

⑤活動経費： 0 千円

：内訳 補助金 千円（事業名： ）

支援団体 千円（団体名： ）

自主財源 千円

⑥これまでの成果（選考基準4-①～⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。）

平成17年に1件あり、組合員にはもちろん、地域住民の評価も高かった。

（内容：6haの田植え支援）3日間で延べ人数57名

⑦今後の計画、見通し： 今後も不測の事態が起きれば水土里ネットが主体的に対応する。

◇活動名：水田農業構造改革対策現地確認(転作確認)

①開始時期：平成19年度から取り組む

②活動内容（活動状況の写真を添付してください。）

水田農業推進協議会の依頼により転作状況の確認を行なった。（転作率26.1%）

③水土里ネットの役割：□主催、□共催、■協力、□その他

(該当する口を■に置き換えてください。なお、活動のために組織を別途立ち上げて実施している場合は、「その他」を■にして、VI-1に組織の概要を記載してください。)

水土里ネットの本来業務ではないが、他の機関と協調・連携として協力している。

④連携する団体(団体の概要をVI-1に記載してください。)

団体名： 当麻町水田農業推進委員会

団体の役割： 当麻町水田農業ビジョンの適確な実施

⑤活動経費： 0 千円

：内訳 補助金 千円 (事業名：)

支援団体 千円 (団体名：)

自主財源 千円

⑥これまでの成果(選考基準4-①～⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。)

本年度から始まった作業であるが、農家の評価(地域農業に貢献)が高まった。

⑦今後の計画、見通し： 今後も地域農業のために継続して協力したい。

◇活動名：環境・景観保全活動

①開始時期：平成17年度

②活動内容(活動状況の写真を添付してください。)

平成15年から始まった施設見学会において、平成17年から同時に施設周りのゴミ拾いを始めたのがきっかけである。

小学校の総合学習の一環で、当麻小学校(4年生・5年生の)施設見学会と併せ農業用施設の大切さと環境景観保全のため子供たちに呼びかけて頭首工と用水路周辺のゴミ拾いを実施。



(用水路のゴミ拾いをする5年生)



(頭首工周りのゴミ拾いをする4年生)

導水幹線用水路沿いの雑草が目立ち、環境美化にそぐわないために花類の植栽を計画。

平成18年5月15日に導水幹線用水路沿い30mに当麻町立宇園別小学校児童45名(3年生16名、4年生13名、5年生9名、6年生7名)が『太陽の花』として親しまれるひまわりの種を蒔いた。

播種してから3ヶ月の8月中旬には背丈が3mに成長し、花径は30cmになり、秋には翌年用に種を採取した。

平成19年は、延長を100mとし、夏のひまわりの他秋のコスモスの種も蒔いた。



(一列になってひまわりの種を蒔く：50cm間隔で2列)



(有志から寄付されたひまわりの種)

③水土里ネットの役割：■主催、□共催、□協力、□その他

(該当する口を■に置き換えてください。なお、活動のために組織を別途立ち上げて実施している場合は、「その他」を■にして、VI-1に組織の概要を記載してください。)

小学校や教育委員会と連携し水土里ネットの管理する施設の役割に対する理解を深める

④連携する団体 (団体の概要をVI-1に記載してください。)

団体名： 小学校・教育委員会

団体の役割： 総合学習を通じて子供達に農業・農村の役割や多面的機能を学習する

⑤活動経費： 2 千円

：内訳 補助金 千円 (事業名：)

支援団体 千円 (団体名：)

自主財源 2 千円

⑥これまでの成果 (選考基準4-①~⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。)

ゴミ拾いを行う事で施設周辺が綺麗になり、ゴミを捨てる人が減った。

農業施設に愛着を持ってもらえ、環境に対する美化意識も向上した。

年度	外部運動に係わったスタッフの数(延べ数)							外部運動への参加者の数(延べ数)							イベント等 開催数	
	役員	職員	組合員	行政	JA	水土里 ネット 北海道	計	組合員	一般	学 生 等						計
										小	中	高	教諭	小計		
16							0							0	0	
17							0							0	0	
18	1	6	1	-	-	-	8			45			5	50	50	1

⑦今後の計画、見通し： 来年以降もひまわりの種取を続け、延長を伸ばし、環境美化に配慮していく。

◇活動名： 多様な広報等

①開始時期： 平成15年度

②活動内容（活動状況の写真を添付してください。）

農業用水、水土里ネット等のPRパンフレットの作成・配布、見学する各施設の写真、図面、手作りの鳥瞰図、水土里ネットのパンフ（マンガ本）、各活動報告は町広報誌（我が郷土）、JAだより（くみあいだより）の記事で掲載している。また当麻町のホームページで見ることが出来る。



(水土里ネットとうまの広報)



(当麻町のホームページ)

③水土里ネットの役割： 主催、共催、協力、その他

（該当する口をに置き換えてください。なお、活動のために組織を別途立ち上げて実施している場合は、「その他」をにして、VI-1に組織の概要を記載してください。）

広報を通じて、水土里ネットの役割や活動、21創造運動の活動報告等を掲載し、組合員の意識向上に貢献する。

④連携する団体（団体の概要をVI-1に記載してください。）

団体名：当麻町・JA当麻

団体の役割：広報を通じて、水土里ネットの活動を紹介。

⑤活動経費： 0千円

：内訳 補助金	千円（事業名：_____）
支援団体	千円（団体名：_____）
自主財源	千円

⑥これまでの成果（選考基準4-①～⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。）

多様な広報活動が地域住民のみならず、広く北海道民に知られ、農産物のブランド化や農業振興に貢献した。

⑦今後の計画、見通し： 今後とも引き続き広範に続けたい。（NHKの活用）

4. 21創造運動（各種活動）の情報発信（選考基準3-④）

（1）情報発信の方法（多様なツールを活用しつつ21創造運動動の情報発信を積極的に行っていますか。）

（該当する口を■に置き換えてください。）

- 水土里ネットホームページを開設している。
- 都道府県水土里ネットのホームページに掲載している。
- 定期的に情報誌を作成している。
- 水土里ネット事務所等の掲示板に貼りだしている。
- 市町村の発行する情報誌に記載している。21創造運動情報は当麻町のHPで紹介される。
- チラシ等を作成し配布している。（対象： ）
- 特に情報発信はしていない。
- その他： 水土里ネット北海道の会報（月刊）に掲載される（年5～6回）。
JAとうまの「くみあいだより」に掲載される（年3～4回）。

（2）21創造運動がマスコミに取り上げられたことがありますか（新聞、TV、ラジオ等）

（ここでは、創造運動において重要と考えています情報発信の状況について把握します。21創造運動は、地域に広く情報発信することで水土里ネットや農業・農村整備等について理解を求めることが肝要です。マスコミには積極的に情報を発信することが望まれます。）

（該当する口を■に置き換えてください。）

ある（いつ：平成15年、16年、17年 何に：新聞・テレビに取り上げられた。）

①マスコミに取り上げられるためにどんな努力（工夫）をしましたか。

- ・通信員に連絡して取材に来てもらった。
- ・新聞社の記者に取材依頼をして来てもらった。
- ・子どもたちが自分たちで製作したテレビ番組が放映された。

（当麻小学校の生徒たちが「たんぼの教室」をテーマにテレビ番組を制作し、NHKの放送体験クラブのキッズニュースで放映された。）

②その結果マスコミとのパイプはできましたか。

記者とはパイプは出来ている。インパクトのある取材に来てくれるような活動を行なう予定。（H19年もNHKキッズニュースの番組制作と、素焼き土管づくりの予定）

- 資料等提供したが取り上げられなかった
- ない → 接触の方法がわからず働きかけが出来なかった
- これといった働きかけはしていない

その他：

VI 21創造運動の成果（選考基準 4）

（運動の成果については、V-2の各項目で個別に伺いましたが改めて総括的に伺います。）

1. 21創造運動を実践するための連携組織について（選考基準4-①）

（21創造運動を実施するために、水土里ネットが核となって別団体を立ち上げたり、他の団体と連携するなどの手段が考えられます。こうした形態で21創造運動を実施している実態があれば記述してください。）

◇組織名（団体名）：当麻町収穫祭実行委員会

- ①組織の構成員：米産地形成協議会、そ菜研究会、花き生産組合、蟠龍そば生産部会、原木クラブ、しいたけ生産組合、そば研究会、JA、JA女性部、JA青年部、水土里ネット、商工会、（株）野口商店
- ②主 な 事 業：とうま新米・新そばまつり
- ③水土里ネットとの関わり：同じ農業団体で協力、創造運動活動写真パネル展、暗渠排水模型展示、水路など施設での水難事故防止啓蒙普及DVD放映、パンフレットなどを配布して水土里ネットの役割などをPR。

◇組織名（団体名）：当麻町クロスカントリースキー大会実行委員会

- ①組織の構成員：当麻町スポーツ少年団、当麻町体育協会、当麻町スキー連盟、JA当麻、水土里ネット
- ②主 な 事 業：当麻町クロスカントリースキー大会
- ③水土里ネットとの関わり：コースが水田を利用していること、及び出場者がたんぼの教室等に参加していることからこのスキー大会に参画することになった。

◇組織名（団体名）：当麻米生産確保緊急支援システム推進協議会

- ①組織の構成員：JA当麻、水土里ネット
- ②主 な 事 業：当麻町生産確保緊急支援システム
- ③水土里ネットとの関わり：当麻米の生産確保に同じ農業団体として組合員等の支援をするために推進協議会に参画することとなった。

2. 関係機関との連携状況（（ ）内の1から8に○をつけてください。複数回答可）（選考基準4-①）

関係機関名	連携の状況	連携の内容	今後の連携の見通し	凡 例
町内会・自治会	1 (2) 3 4	5 6 (7) 8	(9) 10 11 12	◆ 連携の状況 1. 積極的に連携できた 2. 一定の協力が得られた 3. 今回は連携できなかった 4. 全くない ◆ 連携の内容 5. 共催、協賛、後援 6. 活動計画樹立の助言を得る 7. 人材派遣 8. 資金援助 ◆ 今後の連携の見通し 9. 積極的に連携していく 10. その都度協議していく 11. 今後連携の可能性あり 12. 全くない
N P O	1 2 3 4	5 6 7 8	9 10 11 (12)	
教育機関	(1) 2 3 4	(5) 6 7 8	(9) 10 11 12	
マスコミ	1 (2) 3 4	5 6 7 8	9 (10) 11 12	
農 協	1 (2) 3 4	(5) 6 7 8	(9) 10 11 12	
市 町 村	(1) 2 3 4	5 6 (7) 8	(9) 10 11 12	
都道府県 水土里ネット	(1) 2 3 4	(5) (6) 7 (8)	(9) 10 11 12	
都 道 府 県	(1) 2 3 4	5 6 (7) 8	(9) 10 11 12	
国	1 2 3 (4)	5 6 7 8	9 10 (11) 12	
その他（消防署）	(1) 2 3 4	5 6 (7) 8	(9) 10 11 12	

◇ 連携に際して特に工夫した点があれば記入してください。

- ・ 教育委員会 → バス及びパネルの使用
- ・ 2小学校（環境・景観保全）及び消防署（逆サイホンの管理）と協定締結を予定している。
（平成20年度）

3. 水土里ネットや土地改良施設の役割、それらに支えられている農業農村の多面的機能重要性について地域住民等の理解が深まっていますか。（選考基準4-②）

（アンケート結果等があれば、それを用いるなど具体的に記述してください。）

アンケートは平成15年に行っているが、その後は実施していない。しかしながら、イベント参加人員が年々増加していることから、理解が深まってきている。

4. 運動が施設の管理や地域資源の保全の強化につながっていますか。（選考基準4-③）

（施設の管理や地域資源の保全に係る行政や地域からの財政的、人的な支援等の変化について具体的に記述してください。）

環境・景観美化ひまわりの植栽を30m（H18）→100m（H19）に延長増。
平成19年はコスモスも植栽。

5. 水土里ネットの地域づくりへの関わりが大きくなっていますか。（選考基準4-④）

（関係機関からの相談・依頼、役職員の意識の変化等について具体的に記述してください。）

- ・ 平成19年度当麻町立宇園別小学校から施設見学会と出前授業の依頼。
- ・ 上川中部消防組合当麻支署から消防訓練の用水使用依頼。
- ・ 排水路愛護共励会における管理延長の増と地域住民の参加増。

6. 農地・水・環境保全向上対策への関わり（選考基準4-⑤）

（1）地区内の実施状況

町財政の関係で実施していない。

（2）水土里ネットの取組（水土里ネットとしてどのような支援等を行っているのか具体的に記述してください。）

農地・水・環境保全向上対策事業は、将来的には実施の方向で検討中である。

現在は国営造成施設管理体制整備促進事業を実施しているが、21年以降は農地・水・環境保全向上対策で対応したい。

7. 21創造運動を通じて地域農業の振興に貢献していますか。（選考基準4-⑥）

（□にとって、地域農業の振興は必要不可欠な事項です。農業振興への取り組みについて記述して下さい。）

～該当する□を■に置き換えてください。～

- 土地利用調整 水利用調整 情報収集及び提供 直売所等への関与
営農支援 実証栽培 土づくり 環境保全型農業の推進
営農指導 その他：転作確認支援
その他：当麻米生産確保緊急支援システム推進協議会

VII 運動の成果のまとめと今後の展望（選考基準 4）

1. 21創造運動により地域や水土里ネットがどのように変わったか

（IV-1で記述した運動の背景、きっかけをふまえ、運動により地域や水土里ネットがどのように変わったのか具体的に記述してください。）

当初、当麻町教育委員会の主催で行なわれていたの「ふるさと教室の施設見学会」、「いちい学園の施設見学会」が、当麻町全体の課題である高齢化・少子化による後継者不足に直面し、町の財政上の問題もあって水土里ネットが主催となり、21世紀土地改良区創造運動による地域農業の活性化と後継者育成を目指し活動が開始された。（町職員の休日出勤や超勤の問題等があった）

特に、小学校の総合学習の中で「田んぼの教室」、「施設見学会」、「景観環境保全活動」、「多面的機能の発揮」などの話をするようになり、子供達の水土里ネットに対する考え方やかかわりに対する意識が大きく変わってきた。例えば、子供たちに会うと「水土里ネットのおじさん」とあいさつしてくれるようになった。

このように、水土里ネットの存在が身近なものとなり、子供たちや排水愛護共励会における地域住人のイベント等の参加が増えてきたことを考えると、水土里ネットの事が非農家である地域住民に浸透し、意識が変わってきたように思える。

水土里ネットとしても当初は、地域の協力を得ながら将来における農業後継者育成という漠然とした方向で進んできた。しかしながら、当麻町の現状は遥かに厳しいことに気づいた。

当麻町の実態

項目	H5年	H13年	H17年	減少率
総人口	8,383	7,893	7,643	8.8%
農家従事者数	1,746	1,484	1,199	31.3%
農家戸数	912	804	804	11.8%
農地面積(田)	4,317	4,287	4,267	1.2%
小・中学生数	974	778	646	33.7%

上の表から、農家戸数は横ばいとなっているが、農業従事者数はここ12年間で31%の減少であり、このままの減少が続くならば40年後には100人を切ってしまう。これは同様に子ども達の減少率とほぼ相関関係にあるといえる。

当麻町の現状を地域に理解してもらい、地域の支援がようやく確立されてきつつある中で、支援体制ができ上がっても、その健全な農地を引き継ぎ、中心となって農業を担い、全道一の良質米やテレビ等で全国にも紹介された「でんすけすいか」等の当麻の特産品を生産してくれる農業者がいないのでは体制作りが無意味になってしまう。

支援体制の確立は勿論であるが、今後20年30年先を想定した農業後継者の育成が喫緊の課題であると考え、この運動を通して水土里ネットが大きく前進することが必要であり、そのためには、小学生・中学生が農業を学び、そこから農業に携わる者が一人でも多く現れることを期待しながら、たんぼの教室や出前授業を継続していかなければならないとの信念を持って活動を行なっている。

2. 今後、どのような方針で運動を展開していくのか

*学校教育・社会教育と連携した「学社融合」の考えを取り入れていく。

・当麻町立当麻小学校5年生のたんぼの教室と当麻町内小学校4年生の土地改良施設見学会、当麻町立宇園別小学校の景観環境保全活動を中心に実施する。

・そのほかに体験できるメニューがあれば取り組んで、子供たちにいろいろ体験してもらい、21創造運動を通じて「農」と「食」の大切さを学習してもらう。

・役員への21創造運動はほぼ周知されているが、今後総代を通じてさらに組合員や地域住民に広く普及し、後継者育成を検討していく。

水土理ネットとうまにおいてはVI-6でも記載したとおり、農地・水・環境保全向上対策は町財政の関係で本年度実施していないが、将来的には実施の方針で検討中である。この、農地・水・環境保全向上対策の円滑な推進のためには、当麻町民のみならず、北海道民にも農業農村の多面的機能に対する理解を求め、特に、食料の安定供給を確保するための農地・農業用水等の資源を適切に保全していくことの重要性を強力にPRしていくことが必要である。

水土里ネットとうまにおいても、21創造運動の積極的な取り組みを通じて、地域住民の理解が得られ、多様な主体が参画する資源保全活動を推進していくとともに、水に親しみ、土と戯れ、里に徹睡むそんな環境を整え、その環境の中で育った子供達が将来の当麻町の農業の担い手となることを信じて活動を続けていきたいと考えている。

VIII その他特記事項

○最後に21 創造運動の推進に当たりご意見ご要望があれば記述してください。

・「21 創造運動ボランティア」のようなシステム（制度）があれば良いと思う。

21 創造運動に係わっていた人が定年退職して、活動のサポートをしてくれるようなシステム、例えば、災害ボランティアのような全道一円をカバーするようなシステムがあれば活用したい。

IX その他**1 中央選考委員会へ推薦された場合の水土里ネットの問い合わせ先**

水土里ネット

担当者： 小野寺 孝 一 所属・職名 総務課長 電話番号： 0166-84-2231
※携帯番号： 090-3394-8540

都道府県水土里ネット

担当者： 渋谷 義幸 所属・職名 水土里推進部 指導支援グループリーダー
電話番号： 011-221-2292 ※携帯番号：090-5953-3920

※中央選考委員会での質問等について、お問い合わせすることがありますので担当者の携帯電話番号は記入願います。